

リニューアルしました！
★広報誌の名前が変わりました
★A3サイズになりました



ほくぶNNだより

第10号
平成30年7月発行

世界農業遺産トピックス

世界農業遺産推進フォーラムが開催されました

平成30年5月20日、大崎市古川のインパル浦島にて、大崎地域世界農業遺産推進協議会主催の「世界農業遺産推進フォーラム」が開催されました。このフォーラムは、今年4月19日にイタリアローマの国連食糧農業機関（FAO）で世界農業遺産の認定証を授与されたことを記念して、開催されたもので、当日は約300人が来場しました。

フォーラムでは、昨年10月に世界農業遺産科学助言グループ委員として現地調査に入った、カナダ出身のあん・まくどなど上智大学院教授が、「世界農業遺産の意義と可能性」について講演しました。

また、大崎地域世界農業遺産推進協議会事務局の平山周作大崎市経済産業部長からの認定証授与式の概要報告や、消費者や生産者などによるリレートーク、ロゴマークのお披露目もされました。



◀水管理の歴史と継承の上に成り立つ豊かな自然、人々の暮らし、農作物などの恵みをデザインしたロゴマーク

今後、様々な場面で活用される予定です！

世界農業遺産に位置付けられている巧みな水管理施設を紹介します

世界農業遺産「大崎耕土」の伝統的水管理システムに位置付けられている巧みな水管理施設（農業水利施設等）を一般の方々にも広く知ってもらおうことと、現地に来訪してもらうための紹介資料を作成しています。

この資料は、今後、随時作成し、各土地改良区や農業農村整備部ホームページに掲載します。また、現地にも資料と同様の紹介看板を設置していく予定です！

▲資料イメージ

農業農村整備優良地区コンクールで、農地整備事業【下志田地区】が、全国水土里ネット会長賞を受賞しました

農業農村整備優良地区コンクールとは、全国土地改良事業団体連合会が主催となり、農業農村整備事業を契機として、豊かで競争力のある農業や美しく活力ある農村の実現に取り組んでいる地区を表彰するものです。

下志田地区は「農業振興部門」で、産地収益力の向上や担い手の体質強化が図られていることが評価され、平成30年3月26日に全国水土里ネット会長賞を受賞しました。

地区内の担い手である(有)マルセンファームが生産する高精度トマト▶



大崎地区県営ほ場整備事業推進協議会が予算確保に関する農地整備事業の要望活動を実施しました



平成30年6月4日、5日の両日に「大崎地区県営ほ場整備事業推進協議会（9土地改良区）」と大崎市長、美里町長、涌谷町長、栗原市長は、農林水産省、財務省、自民党本部に対して、農地整備事業の予算確保に関する要望活動を実施しました。

この活動は今回で5回目で、今年度は、栗原地域団体と合同で行われました。同協議会は、美里町の「(農)みらいす青生」が日本農業賞(組織の部)を受賞するなど、ほ場整備による効果が着実に現れていることから、農業農村整備事業予算が必要不可欠であることについて説明しました。また、併せて大崎地域が世界農業遺産に認定されたことについて説明を行いました。

迫川上流土地改良区と真坂土地改良区の合併予備契約調印式が挙行されました

平成30年5月23日、迫川上流土地改良区と真坂土地改良区の合併予備契約調印式が執り行われました。調印式には、栗原市長、登米市長、一関市長、宮城県北部地方振興事務所長が立ち会い、11月30日の合併を目標に固い握手を交わしました。

今回の調印式により、受益面積10,617ヘクタール、組合員数7,588人という県内では最大規模となる土地改良区の誕生を目指して、力強い一歩を踏み出しました。



農業農村整備事業学習会を開催しました



平成30年6月28日、小牛田農林高等学校農業技術科農業土木コースの2年生39名を対象に、二ツ石ダム(加美町宮崎)と桑折江頭首工(大崎市三本木)、農地整備事業を実施した青生地区(大崎市、美里町)を見学し、農業用水や農業水利施設の役割、ほ場整備の効果などについて学ぶことを目的として農業農村整備事業学習会を開催しました。

二ツ石ダムでは、普段入れない監査廊の見学を行い、生徒のみなさんは地下70mの監査廊に降りる長いスロープに驚いていました。

水稲低コスト栽培技術の導入に向けた研修会を開催しました



平成30年5月2日、北部地方振興事務所農業農村整備部と栗原地域事務所農業農村整備部の共催により、水稲低コスト栽培技術（乾田直播栽培）の導入に向けた視察研修会が、農事組合法人みらいす青生のほ場内で行われました。研修会には、県・市町村・土地改良区職員のほか、農地整備事業を計画、実施している地区の担い手農家、地区推進委員等を含め68名が参加しました。

青生地区は平成16年度から農地整備事業を実施しており、みらいす青生は青生地区の中心的な担い手となっています。平成30年度は、約35haで水稲乾田直播を実施しています。

稲直播栽培の中でも特に乾田直播栽培は、代掻き等の作業が省略でき、春作業の省力化が期待されると言われています。乾田直播の中には、平畝成形播種方式と、プラウ耕・グレーンドリル播種方式があり、みらいす青生は後者を実施しています。

研修会では作業内容の説明のほか、乾田直播の播種・鎮圧作業の実演も行われました。また、実際に作業員（オペレーター）からも説明を頂き、参加者に好評でした。

<乾田直播のメリット>

- 移植に比べ作業時間が短い。
- 育苗ハウスが必要ない。
- 移植栽培と組み合わせることで、作業時間・収穫適期を分散することができる。
- 麦、大豆等の他転作作物と同じ機械で作業することができ、機械の汎用化に繋がる。

播種作業



鎮圧作業



●みらいす青生の乾田直播作業体系

秋～冬に耕起、3月に畦塗りを済ませ、4月下旬から砕土→播種→鎮圧を行う。

移植栽培の田植えに当たる播種・鎮圧作業は、オペレーター1人あたり1日7ha程度進む。



着工前



完成

入合堰災害復旧工事が完了しました

入合堰は加美町の南東に位置し、加美町と色麻町の農地32haへ用水する一級河川鳴瀬川からの取水堰ですが、平成27年9月の関東・東北豪雨により堰が被災（全壊）したことから、早期復旧を目指し県が事業主体となり、災害復旧事業を進めてきました。

堰の復旧は河川内工事のため平成28年度の非洪水期に堰右岸部、平成29年度の非洪水期に堰左岸部を復旧し、今年5月に完成しました。

水土里ネット江合川が水神祭を開催しました

土地改良区トピックス

平成30年4月20日、江合川沿岸土地改良区の役職員が、今年一年の安定的な用水確保と洪水被害防止等を祈念して大崎市古川清水にある三丁目頭首工において水神祭を開催しました。本神事は、平成2年から継続して執り行われております。施設管理者である江合川沿岸土地改良区の理事長をはじめ、関係者26名が出席しました。

三丁目頭首工は、大崎市と美里町の水田4,034haに用水を供給しており、世界農業遺産認定を受けた豊かな大崎耕土を潤す重要な役割を果たしています。



宮崎小学校6年生が田植え体験をしました

多面的機能支払活動



平成30年5月23日、NPO法人「石母田ふる里保全会」が多面的機能支払活動の一環として、加美町立宮崎小学校の6年生14名を対象に、昔ながらの田植えや水田の生態系、環境保全活動に関する学習会を開催しました。このような体験学習は平成19年から行われており、今年で11年目となります。

生徒のみなさんは、「粹回し」と呼ばれる木枠を転がして印を付けたところに手で苗を植えたり、あぜから田んぼに苗を投げ入れる「投げ植え」や「生物調査」に取り組みました。

宮城県北部地方振興事務所農業農村整備部

〒989-6117 宮城県大崎市古川旭四丁目1番1号(宮城県大崎合同庁舎4階)

TEL 0229(91)0701(代)

FAX 0229(23)5014

ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-sgsin-ns/>

編集:北部PRWG